

# 国際学術会議 (International Science Council (ISC)) の概要

2021年10月  
日本学術会議

# 国際学術会議 (International Science Council (ISC))の概要

## 設立と規模

- 世界最大の非営利学術団体 (アカデミー146団体、学術連合41団体等)
- 自然科学系のICSU(国際科学会議 1931設立)と社会科学系のISSC(国際社会科学評議会 1952設立)が2018年に合併して発足

## ビジョン・ミッション

- To advance science as a global public good (世界の公共財である科学の推進)
- To act as the global voice for science (科学に関する世界の声を代表)

## 主な活動

- ISC Action Plan に基づく地球規模の主要課題への対応 (COVID-19 プロジェクト、科学の自由と責任委員会等)
- 国際的な科学イニシアチブの主催・共催

## 理事会 (Governing Board)

- 加盟会員による選挙にて選出される15名の役員 (任期3年) で構成、上位5名 (会長、次期会長、副会長3名) がオフィサーと呼ばれる中核メンバー
- ISCの理事会役員に日本人が選出されたのは今回が初めて
- ISCの前身ICSUでは、茅誠司ICSU副会長 (1963年)、吉川弘之ICSU会長 (1999-2002年)、黒田玲子ICSU副会長 (2009-2011年) 等の就任歴あり

## ガバナンス

- 総会は全加盟メンバーで構成される最高意思決定機関 (3年に1回開催)
- 理事会は運営方針・戦略・予算等策定など最上位の執行機関 (原則年2回開催)

# ISC理事会役員(任期2021年10月～2024年9月)

役職	氏名	国・地域	専攻
会長	Peter Gluckman	ニュージーランド	小児科学
次期会長	小谷 元子	日本	数学
副会長*1	白波瀬佐和子	日本	社会学
副会長*2	Anne Husebekk	ノルウェー	医学
副会長*3	Salim Abdool Karim	南アフリカ	医学
理事	Karina Batthyány	ウルグアイ	社会学
	Françoise Baylis	カナダ	生命倫理学、哲学
	Geoffrey Boulton	英国	地学
	Melody Burkins	米国	地学
	Mei-Hung Chiu	台湾	化学、科学教育
	Pamela Matson	米国	環境科学
	Helena Nader	ブラジル	生物医学
	Walter Oyawa	ケニア	土木工学
	Maria Paradiso	イタリア	地理学
	Martin Visbeck	ドイツ	海洋学

\*1: 財務担当 \*2: 科学の自由と責任担当 \*3: アウトリーチとエンゲージメント担当

# 日本学術会議の国際活動（参考）

- 学術会議は、日本を代表する科学アカデミーとして、学術の進歩と世界の諸問題の解決に寄与するため、国際会議の開催や国際学術団体・各国アカデミーとの協働を始めとする様々な国際活動を展開。

## ①国際学術団体との連携

- ・ 44の国際学術団体に加入し、国内の委員会と連携しながら、代表者の派遣等を通じて運営・審議に参画。
- ・ 国際学術団体における国際基準制定の議論にも参画。日本の学術の国際基準への反映に貢献。<sup>※1</sup>
- ・ 国際学術団体の総会等の招致活動に対し代表派遣等を通じて支援。招致決定後は、特に重要と認められ優先度の高い分野横断的な国際会議を、学術研究団体と共同主催。
- ・ 科学者間のネットワーク機能を活かし、学術会議が我が国アカデミアの窓口となって、国際学術団体が推進するプロジェクト等に会員等を紹介。

## ②各国アカデミーとの連携

- ・ 英国王立協会等、世界のアカデミーと交流・連携。世界各国からの研究者の参加を得てシンポジウム等を開催。
- ・ G7やG20への政策提言として、地球規模の重要課題について共同声明発出（Gサイエンス学術会議（G7サミットに向けた政策提言を行うことを目的としたG7参加アカデミーによる会合） / S20（G20サミットに向けた政策提言を行うことを目的としたG20参加アカデミーによる会合））。<sup>※2</sup>
- ・ アジア地域では18の国・地域の32機関が加盟するアジア学術会議を主導し、事務局運営。

<sup>※1</sup> 学術会議加入団体における、日本で発見された新元素の命名権の獲得（ニホニウム）やGSSP（国際標準模式層断面とポイント）への千葉セクション（チバニアン）の承認

<sup>※2</sup> 令和元年に日本学術会議が主催したS20では、「海洋生態系への脅威と海洋環境保全」をテーマに取り上げ、共同声明を取りまとめた。